

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(音明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	令和 5年 8月 25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2372201109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チアフルの理念でもある「生きているってすてき」を提供する為に、利用者は職員と協力しながら今できる力を継続できるように、自分で出来る事をして生活している。外出が出来るようになってきたので、徐々に地域へのイベントの参加やランチやモーニング等行っていきたい。また、今までご家族と直接お会いできなかった分、交流の場を持てるように交流会を行った。今後は、地域の方と共にも行っていきたい。医療面では月2回の往診で医師との連携を密に取り、本人、ご家族の意向に沿った医療が受けられる様に支援しています。いつでも利用者、ご家族、地域に愛され、信頼される施設の実現を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは両ユニットが平面でつながっていることもあり、利用者の希望にも合わせながら日常的にホームの外に散歩等を通じて外出する機会がつけられており、ホーム内で利用者が閉塞感を感じないように支援が行われている。感染症問題が徐々に落ち着いてきたこともあり、運営法人全体で検討を重ねながら、地域の方や家族をはじめとする外部の方との交流を段階的に再開しており、利用者と地域の方との行事に参加したり、家族と利用者が外出に出かける等の機会がつけられている。運営推進会議についても対面方式での再開が行われており、会議の関係者との情報交換につなげている。また、管理者については、運営法人の幹部職員からホームに勤務している職員に変更が行われており、現場の職員に責任を持ってもらいながら、職員の資質向上にもつなげる取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の唱和をミーティング時全員で行い、常に確認と意識を持って日常の支援活動に繋げ、ユニットの年間目標にも反映し職員の意識を高めている。	運営法人の基本理念を職員による支援の基本に、職員間で理念を確認する取り組みを行い、共有につなげている。また、ユニット毎及び職員一人ひとりが目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の再開、地域の児童館での七夕祭りへの参加など徐々に以前のような地域との交流の機会を図る場を積極的に増やしている。	地域の方との交流については、運営法人の代表者及び幹部職員が地域の方でもあることで、日常的に交流が行われている。地域で行われている行事に参加する機会をつくり、交流を再開する取り組みが行われている。	地域の方との交流が徐々に再開している状況でもあるため、今後の感染症の状況もみながら交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設での日常生活を写真に撮り、施設のブログやInstagramに載せ、生活風景・行事などを解り易く、誰でも自由に閲覧出来るように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	5月から対面での運営推進会議を行い、2カ月毎に開催を予定している。会議では災害時、地元住民との協力をもって被災後の支援活動なども話し合い、これからの災害時による協力体制を図る事も検討された。	会議については、今年度より対面方式で再開しており、地域の方をはじめ会議の関係者との情報交換の機会につながっている。会議の際には、ホームの運営状況を細かく記載する用紙を作成し、関係者にホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が行っているが、それに伴う協力体制はユニットとして全面的にバックアップして協力体制を取っている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、関連事業所とも連携しながら行われており、ホームの運営への反映につなげている。市内の介護事業所が集まる連絡会や地域包括支援センターで行われている行事等を通じた交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で学ぶと共に、身体拘束等適正化検討委員会にて目標を定め評価している。目標をユニット内で共有し、ヒヤリハットの検討、職員間で声を掛け合い、日頃から身体拘束への意識を持ちケアに努めている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内を利用者が自由に移動できるように閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、運営法人を通じた身体拘束に関する委員会が組織されている他にも、定期的な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で学ぶと共に、身体拘束等適正化検討委員会にて目標を定め評価している。目標をユニット内で共有し、ヒヤリハットの検討、職員間で声を掛け合い、日頃から虐待への意識を持ちケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度や法律等に対して学ぶ機会はない為学ぶ環境づくりに努め、知識等を深めていく必要がある。制度の理解と活用の支援へ繋がるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者が不安や疑問がないよう十分な説明を行っている。家族からの不安や疑問があれば管理者・リーダーが迅速かつ真摯に対応をし、理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者は日頃の会話の中から、家族は面会時・電話・LINEを活用して、意見・要望等引き出せるように努め、運営に反映が出来るようにしている。	家族との交流会が再開しており、多くの家族の参加が得られている。家族からの要望等は管理者が把握し、運営法人の幹部職員にも報告し、必要な対応が行われている。また、ホーム便りの他にもLINEを活用した情報交換も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談・朝礼・ミーティング・委員会・行事など、職員の意見をもとにケア等に反映している。意見を自由に言える雰囲気づくりに努め、言えない方も書面で聴く等している。職員がやりたい事を行えるように努めている。	職員会議や日常的な職員間での情報交換等を通じて、職員の意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者及びリーダーによる職員面談も行われており、リーダーが把握した職員からの意見等を管理者に報告する体制がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者とリーダーは職員と年2回面談し目標を決めている。その際、想い等も引き出せるように努めている。定期的に振り返りをして、各自が向上心を持って働けるように環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の内部研修を開催し、一人一人目標を定めている。委員会主体での勉強会の開催もある。外部研修も一人一人に合わせて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修や交流会への参加などで同業者との交流の場を作っている。また、LINEなども活用して他施設の職員などとも連絡を取り、問題の解決策、情報交換などの意見交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人と傾聴する時間を多く設け、希望や要望、不安な気持ちを引き出せるように努めている。本人が早期に安心して生活出来る環境作り、人間関係作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の意見・要望・想いなどを十分に聴きながら、サービスの導入をしている。不安に想っている事・要望等を理解し、職員間で情報を共有し、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報と本人・家族との会話、施設内での行動を観察し、「今」何を必要としているかを探り、本人、家族の希望に沿った支援を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の得意な事や趣味・関心事を引き出しに努め、共に取り組むことで信頼関係を築き自立支援に繋げている。また、教えていただく場面を作り、意欲的に参加できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の想いや状況を家族に月2回の往診後やLINE通信も活用して密に連絡を取るよう努めている。家族と共に本人を支えると常に思い、何事も家族に相談が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話・年賀状・暑中見舞いなどの作成と一緒にいき、馴染みの人との良い関係が途切れないよう努めている。その為友人の面会もあり関係継続の支援に繋げている。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、関連事業所に利用者の関係の方が利用しており、可能な範囲で交流を継続する支援も行われている。また、家族との外出も徐々に緩和されており、身内の方と過ごす等、交流の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの個性や利用者同士の相性を考慮し、孤立しないよう関係性を築けるように努めている。孤立しないよう職員が間に入り支え合えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所や看取り後など、ご家族とも関係深く、49日の報告や新盆の話など、わざわざ来訪して話してくれるご家族もあり、関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスの活用と、毎日本人との会話によるコミュニケーションを深め、その人らしい生活と本人の好きな食べもの提供など意向に添った支援に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスが行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援に反映する取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との会話、家族からの聴き取りなどできるかぎりの情報を集め、今までの生活を尊重して安心できる様にサービス提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の状況等を申し送り時に確認・共有して注意すべきところ、留意すべきところなど、些細な異変にも、その人のその日の状況、状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の申し送り、普段の話し合いの中など、事ある毎の意見、考えなどを共有しミーティング時の話し合いを基にチームとして介護計画へ反映している。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者に関する様々な変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも介護計画の内容に合わせた記録を残す工夫も行いながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は、タブレットへの記録や申し送りノートへの記入等で共有に努めている。また、毎月のミーティングで介護計画に沿った話し合いをし、その後の介護計画に反映させ実践へと活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人が望む、より快適な暮らしをサポートできるようにコミュニケーションをしっかりと行い、本人に添ったケア計画をもって支援をチームとして積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	散歩時には地域の人と会話、買い物のお店での繋がりなど、生活での支援活動と地域交流などを積極的に勧め、心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期往診や異常時等、常に連絡が取れる。また、適切な指導、指示を頂き、直ぐに受診ができる対応がかかりつけ医との間で出来ている。	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態等に合わせた支援やホーム職員による受診等の対応が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月1回の看護師に来ていただいて、利用者の状況を把握して、何かある時は夜中でも連絡出来るホットラインが構築されていて、直ぐ対応して頂ける体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、書面・電話・対面等で関係者と情報共有を行い、お見舞いに伺い利用者の心のケアを図り、退院時にも、利用者・家族が早期に安心して退院出来るように、連絡を取り合い良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	訪問医、訪問看護とは24時間連絡が取れ緊急時の連携を築いている。また、社内の研修では看取りに関する事も行い、ご家族と終末期の支援に備えている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、協力医とも連携したホームでの看取り支援も行われている。ホームでの生活を希望される方が多いこともあり、職員研修等の体制づくりも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡として24時間対応と毎月の訪問看護の体制を整え、緊急時の連絡網、対応の手順マニュアルなども合わせて確認し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	水害時・地震時・火災時・夜間などそれぞれの災害避難を想定し避難訓練を行っている。備蓄品も毎年確認しているが、地域の協力による訓練は今まで出来ていない。	ホームでは、年4回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練をはじめ関連事業所と連携した取り組みも行いながら、職員間の協力体制につなげている。また、備蓄品についてはユニット毎に確保する取り組みが行われている。	水害の際には、関連事業所の2階に避難することも想定している。当ホームが平屋であることもあり、現状の取り組みを継続しながら、非常災害時の事業所間で連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の立場になり、プライバシーの配慮や言葉遣いや態度を意識して対応している。もし不適切な場面、投げかけがあった場合、職員同士注意し合い、身体拘束ヒヤリを書いて共有して改善を図っている	運営法人の基本理念には、利用者を尊重した対応を行う内容も掲げられており、職員間で基本理念の唱和を行いながら、利用者への対応等につなげている。また、職員の接遇に関する研修を実施し、職員の振り返りや注意喚起の機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者との会話を大切に行い、気さくに話し傾聴する中で、本人の希望・要望に添った対応をその人のペースに合わせて、自己決定の出来る対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望・要望を知り、一人一人に添ったその人らしい暮らしが出来るように努めている。また、体調などを考慮しながら、無理のなく過ごせるようにも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みのヘアスタイルにしたり、自分で洋服を選んだり、一人一人身だしなみに配慮している。また、寝癖・爪・ひげ・目やに・洋服の汚れ等ないか観察し、整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日、献立から片づけまで共に行っている。季節感・行事に合った食材や彩に配慮している。	職員でメニューを考え、利用者も調理や片付け等に日常的に参加できるような支援が行われている。季節等にも合わせた食事の提供やおやつ作りが行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・食事摂取量をタブレットの入力し把握に努め、小まめに水分を勧めたり一人一人量を調整している。夜そうめん食べたい方、ヨーグルトを飲んで見えた方みえ、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは週一度の訪問医の協力のもと、一人一人その人に合わせた支援とチェックなどしてその人に添ったケアを行っている。毎日歯ブラシの消毒、週ごとの歯ブラシの交換など衛生面にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄管理を基に本人の排泄パターン、その日の体調などを考慮して、声掛け誘導を行い、排泄管理を進める中で、自立への支援に繋げている。	利用者の排泄支援を残し、申し送り等を通じて職員間で情報交換を行いながら支援が行われている。トイレでの排泄を基本と考えながら、職員間で声かけ等の確認が行われている。医師、看護師とも連携しながら排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のない日数管理を行い、提供食品の検討、本人の体調等を考慮して看護師との指導連携をもって個々の適切な対応を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴時は長湯希望の人には長湯をして頂ける様にし、体調を見て、本人の要望に添える対応を心がけ、個々がリラックスできるよう支援している。	利用者が週3～4回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけ等を考えながら、定期的な入浴につなげている。ユニット毎に入浴の時間の検討が行われている。また、ホーム内に設置している機械浴を使用した入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息は好きな時に好きな場所で出来るようにしている。音や照明、室温に配慮し、一人一人に合わせた休息ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報がいつでも閲覧ができる。往診時医師・薬剤師と相談し薬の理解を深めている。本人の変化を見逃さないように観察し、服薬時、名前・日付等声出し確認し飲み込む所まで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日の調理・掃除など出来る事をお願いし、お菓子作り・お楽しみ会・誕生日会など、本人が活躍出来る場面を提供して、皆で楽しく生活し気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「お参りに行きたい」と、お寺に行ったり、「散歩行きたい」と行ったり、児童館や公民館等のイベントに参加させて頂いた。本人・家族の要望を聴きながら、戸外へ出かけられるように努めていく。	感染症問題が落ち着いたこともあり、利用者の外出の機会を増やす取り組みが行われており、地域の方との交流に児童館に出かけたり、季節に合わせた外出や外食等の取り組みが行われている。また、利用者と一緒に買い物に出かける支援も行われている。	利用者の外出の機会が増えており、外部の方との交流も再開始めている。今後の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物時、好きな物を買ひ、支払いが出来るようにしている。自身でお金を所持している方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙の要望があれば、いつでも行っている。また、暑中見舞いや年賀状の作成も行い、家族、友人などと連絡が途切れしないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に沿った利用者の手作り作品・壁飾り季節の花・野菜の栽培など、季節を感じ安心して落ち着ける環境の中でゆったりと生活して頂く工夫をしている。場面に合わせ有線を通して、温度調整等こまめに配慮している。	ホーム内は広めの空間が確保され、両ユニットが平面でつながっていることもあり、利用者が日常生活をゆったり過ごすことができる生活環境がつけられている。季節感にも配慮した飾り付けや利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	雨の日は室内散歩・晴れの日にはベランダで日向ぼっこや野菜作りをされたりなど、気さくに施設の環境を活用し、思い思いの生活が出来るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の好みや慣れ親しんだ物として、家族の写真・ぬいぐるみ・観葉植物・壁飾りなど自由に飾られて、快適な環境の中でその人らしく安心した生活が出来るように努めている。	ホームでは、ユニットにより設置されている家具類が異なっているが、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、自身の作品や家族との写真等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室には名前の札・トイレにはトイレマーク・手すりがありバリアフリー等、一人一人が安全かつ自立して生活が送れるように努めている。		